2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月11日

上場会社名　　株式会社ＷＯＬＶＥＳ　ＨＡＮＤ　　上場取引所　東
コード番号　　194A　　ＵＲＬ　https://wolveshand.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役CEO兼COO　　（氏名）北井　正志
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO経営管理本部長　（氏名）田中　哲生　　ＴＥＬ　06（6599）9106

配当支払開始予定日　　ー
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の連結業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	1,695	24.2	278	16.5	283	16.3	191	15.8
2026年６月期第１四半期	1,365	9.1	239	71.3	243	76.1	165	145.4

（注）包括利益　2027年６月期第１四半期　191百万円（15.8%）　2026年６月期第１四半期　165百万円（145.4%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	25.30	24.61
2026年６月期第１四半期	22.13	21.77

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	7,492	4,510	59.9
2026年６月期	6,768	3,718	54.7

（参考）自己資本　2027年６月期第１四半期　4,490百万円　2026年６月期　3,704百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2027年６月期	ー				
2027年６月期（予想）		0.00	ー	26.00	26.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年６月期の連結業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,535	22.4	1,569	39.3	1,569	38.7	1,005	7.0	132.90

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規　2社　（社名）メディトリックス株式会社、ノースワン株式会社、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	7,974,000株	2026年６月期	7,974,000株
②　期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	99,900株	2026年６月期	409,400株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	7,573,827株	2026年６月期１Ｑ	7,478,747株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書 …… 7
四半期連結包括利益計算書 …… 8
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等を背景として緩やかな回復基調が見られた一方、継続的な物価上昇、人件費及び原材料価格の高止まり、海外経済の動向並びに国際情勢の不確実性等により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループが属する動物医療業界におきましては、ペットの家族化及び高齢化の進展、飼い主の健康意識の高まり等を背景として、予防医療、専門診療、高度医療及び継続的な健康管理に対する需要は、引き続き堅調に推移しております。また、飼い主の動物医療に対するニーズは、多様化・高度化しており、動物病院には、診療品質の向上とともに、より専門性の高い医療を安定的に提供できる体制の整備が求められております。

このような環境のもと、当社グループは、動物の健康、人の健康及び環境の健全性を一体的に捉え、動物病院ネットワークを中核とする「獣医療価値創造プラットフォーム戦略」を立案し、動物病院事業を中核としながら、電子カルテ・医療データプラットフォーム、CRO・SMO事業、研究開発機能、医療機器事業、バイオマテリアル事業などを有機的に連携させる「獣医療価値創造プラットフォーム」の構築を推進しております。

当社グループの競争優位性は、個々の事業の集合体ではなく、それぞれの事業が相互に連携することで生み出される「プラットフォームバリュー」にあります。動物病院で蓄積される臨床知見や医療データが研究開発や創薬支援へと展開され、その成果が医療機器、バイオマテリアル、新たな診断・治療技術へと還元される循環型のエコシステムを構築することで、各事業単独では実現できない付加価値を創出してまいります。

また、このプラットフォームは、新たな企業・大学・研究機関との共同研究や事業提携を促進する基盤としても機能し、継続的な事業領域の拡張と新たな収益機会の創出を可能とする成長エンジンとなることを目指しております。

当第１四半期連結累計期間におきましては、獣医療価値創造プラットフォームの中核となる動物病院ネットワーク事業の拡大及び収益基盤の強化を進めるとともに、同プラットフォームを構成する研究開発受託事業の整備を進めてまいりました。

以上の結果、当第１四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,695,358千円(前年同期比24.2%増)、営業利益278,839千円(前年同期比16.5%増)、経常利益283,631千円(前年同期比16.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益191,623千円(前年同期比15.8%増)となりました。

また、当社グループの報告セグメントは、前連結会計年度までは「動物病院事業」のみであり、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、当第１四半期連結累計期間より、市場環境が大きく且つ急速に変化する中、迅速に意思決定を行い、中長期での事業拡大を進める体制を構築するため、「動物病院ネットワーク事業」、「医療衛生機器事業」、「バイオマテリアル事業」、「メディカルデータソリューション事業」、「研究開発受託事業」の５つの事業を報告セグメントとしております。

なお、前第１四半期連結累計期間のセグメント情報を当第１四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、「動物病院ネットワーク事業」以外の事業セグメントの重要性が乏しいため、比較情報を記載しておりません。

各事業の経営成績は、当初計画に対して想定どおりに進捗しており、引き続き通期業績予想の達成に向けて各種施策を推進してまいります。

セグメント別の経営成績は以下のとおりとなります。

【動物病院ネットワーク事業】

動物病院ネットワーク事業におきましては、既存病院の診療体制の強化及びサービス品質の向上に取り組むとともに、M&Aを活用した動物病院ネットワークの拡大及びグループ全体の経営効率化を推進してまいりました。

既存病院におきましては、診療価格の適正化や医療設備の充実を図るとともに、獣医師及び愛玩動物看護師等の人材確保・育成を推進し、診療件数の増加及び診療単価の向上に向けた取組みを進めております。また、各地域のセンター病院とサテライト病院との連携を強化し、一般診療から高度専門医療まで幅広い診療ニーズに対応できる医療提供体制の充実を図っております。

動物病院ネットワークの拡大につきましては、東京都練馬区において「こもれび動物病院」を運営するノースワン株式会社を子会社化し、関東エリアにおける事業基盤の拡充を図りました。また、グループ病院間における医療技術や診療ノウハウの共有、医療機器・医薬品等の共同調達及び管理業務の効率化を推進することで、診療サービスの品質向上とグループ全体の収益力の強化に取り組んでおります。

また、WOLVES HAND獣医先端医療研究所におきましては、研究開発体制の強化を図るとともに、大学や外部研究機関等との連携を通じ、再生医療及びがん領域を中心とした先端医療技術の研究開発を推進しております。特に、動物用幹細胞培養上清液を用いたアンチエイジング研究に係る共同研究コンソーシアムの立ち上げなど、臨床応用及び事業化を見据えた取組みを進めております。

今後も、既存病院の収益力向上に加え、戦略的なM&Aによる動物病院ネットワークの拡大を推進するとともに、獣医療人材の育成及び高度医療体制の整備を通じて、持続的な事業成長を図ってまいります。

以上の結果、売上高は1,479,696千円(前年同期比110.9%増)、セグメント利益は335,678千円(前年同期比114.7%増)となりました。

【医療衛生機器事業】

医療衛生機器事業におきましては飛鳥メディカル株式会社及びカルテック株式会社を中心に、医療機器及び光触媒技術を活用した衛生関連製品の開発・製造・販売を推進するとともに、販売チャネルの拡充及び新たな事業領域の開拓に取り組んでまいりました。

飛鳥メディカル株式会社におきましては、治療用レーザー医療機器の販売及び保守事業を展開するとともに、当社グループの動物病院ネットワークとの連携を通じた製品開発及び外部の動物病院に販路を拡大させるための販売体制の強化に取り組んでおり、同市場に強力な販路を有する事業会社との提携を着実に進めております。

カルテック株式会社におきましては、独自の光触媒技術を活用した除菌・脱臭製品の販売拡大を推進しており、首都圏の高級ホテル等への導入実績を基盤として、リゾートエリアや主要観光都市を含む全国の宿泊施設への販路拡大に取り組んでおります。また、公共分野においても新たな需要の開拓が進んでおり、陸上自衛隊及び海上自衛隊の施設等への製品納入を開始するなど、衛生管理や空気環境に対する要求水準の高い施設への展開を進めております。これらの取組みを通じ、民間施設から公共施設まで幅広い領域における事業基盤の拡大を図っており、ホスピタリティ業界、公的施設、ヘルスケア施設、東南アジア市場の販売拡大のための提携を着実に進めており、下期以降の売上拡大を見込んでおります。

なお、当第１四半期連結累計期間におきましては、将来の持続的な成長に向けた営業体制の強化及び販路拡大を目的として、戦略的な先行投資を実施しております。これに伴う販売費及び一般管理費の増加がセグメント利益を押し下げる要因となっておりますが、当該投資は当初計画に織り込んだものであり、業績は計画どおりに推移しております。

今後も、両社の技術力及び当社グループの事業基盤を活用し、製品ラインアップの拡充と販売体制の強化を図るとともに、センシング、IoT、AI等の技術を組み合わせた空間環境ソリューションへの展開を目指し、将来の成長戦略のための研究開発を進め、医療衛生機器事業の収益基盤の強化に取り組んでまいります。

以上の結果、売上高は98,427千円、セグメント損失は3,824千円となりました。

【バイオマテリアル事業】

バイオマテリアル事業におきましては、キチンナノファイバーを活用した製品の開発・製造・販売を推進するとともに、獣医療分野を中心とした用途開発及び事業基盤の強化に取り組んでまいりました。

キチンナノファイバー事業につきましては、鳥取ファクトリーの再稼働に伴い、キチンナノファイバー原材料の受注を開始するなど、製造・販売体制の整備を進めております。また、キチンナノファイバーが有する生体適合性や保湿性等の特性を活かし、動物用オーラルケアジェル「カイトベール」の製造・販売を推進するとともに、当社グループの動物病院ネットワークを活用した製品の普及及び新たな用途の開発に取り組んでおります。

さらに、鳥取大学等の研究機関との産学連携を通じて、獣医療分野における研究開発及び製品の高付加価値化を推進するとともに、外部の動物病院に販路を拡大させるための販売体制の強化に取り組んでおり、同市場に強力な販路を有する事業会社との提携を着実に進めており、将来的な人医療、化粧品及びヘルスケア分野への応用を視野に入れた事業領域の拡大に取り組んでおります。

今後も、鳥取ファクトリーを拠点とした製造体制の強化と、当社グループの臨床基盤を活用した研究開発を推進することで、バイオマテリアル事業の収益基盤の構築及び事業の成長を図ってまいります。

以上の結果、売上高は6,229千円、セグメント利益は1,035千円となりました。

【メディカルデータソリューション事業】

メディカルデータソリューション事業におきましては、獣医療分野におけるデジタル技術の活用を推進し、動物病院の業務効率化及び診療品質の向上に資するシステム・サービスの開発・提供に取り組んでまいりました。

動物病院向け電子カルテシステム「わん太郎」につきましては、既存システムの機能強化及びAI化を推進するとともに、株式会社ダイナコムとの共同研究を通じ、診療情報の一元管理やAI技術の活用を視野に入れた次世代型電子カルテシステムの開発を進めております。なお、昨今のサイバー攻撃の高度化・巧妙化に伴い、医療機関等における情報セキュリティ対策の重要性が一層高まっております。このような事業環境のもと、当社が提供する電子カルテシステム「わん太郎」はオフライン環境での運用を基本としており、外部ネットワークを経由したサイバー攻撃のリスクを低減できる点において優位性を有しております。こうした製品特性を強みとして、安全性及び信頼性を重視する医療機関等への提案活動を推進し、さらなる販路拡大に取り組んでまいります。

さらに、連結子会社である株式会社ペット・ベットが運営する獣医療情報プラットフォーム「VMN (Veterinary

Medical Network）」におきましては、獣医師向けの教育セミナーや専門コンテンツの配信を通じ、獣医療に関する専門知識及び臨床ノウハウの共有を推進するとともに、サービス内容の充実及び利用者基盤の拡大に取り組んでおります。

今後も、デジタル技術を活用した獣医療サービスの高度化及び情報プラットフォームの機能強化を推進し、メディカルデータソリューション事業の収益基盤の拡大を図ってまいります。

以上の結果、売上高は31,822千円、セグメント利益は5,620千円となりました。

【研究開発受託事業】

研究開発受託事業におきましては、医療・ヘルスケア分野における研究開発支援及び臨床研究支援機能の強化を図るとともに、動物医療を起点とした先端医療技術の研究開発及び事業化に向けた取組みを推進してまいりました。

当第１四半期連結累計期間におきましては、CRO（医薬品等の開発業務受託機関）及びSMO（治験施設支援機関）事業を展開するメディトリックス株式会社を子会社化し、臨床研究支援、治験運営及びデータマネジメント等の機能を強化いたしました。これにより、当社グループが有する動物病院ネットワーク及び臨床研究基盤との連携を通じ、研究開発から臨床試験、製品化及び社会実装までを一貫して推進できる体制の構築に取り組んでおります。

今後も、メディトリックス株式会社が有する研究開発受託機能と当社グループの臨床基盤及び研究開発機能との連携を強化し、外部企業・研究機関からの受託機会の拡大を図るとともに、先端医療分野における新たな事業機会の創出及び収益基盤の強化に取り組んでまいります。

以上の結果、売上高は81,214千円、セグメント利益は15,557千円となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第１四半期連結会計期間末における資産合計は7,492,537千円となり、前連結会計年度末と比べて723,844千円増加いたしました。

流動資産は1,742,193千円となり、前連結会計年度末と比べて245,732千円減少いたしました。これは主に、売掛金が59,616千円増加した一方、現金及び預金が359,703千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は5,750,343千円となり、前連結会計年度末と比べて969,576千円増加いたしました。これは主に、長期前払費用が583,388千円、のれんが385,143千円それぞれ増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第１四半期連結会計期間末における負債合計は2,981,960千円となり、前連結会計年度末と比べて67,828千円減少いたしました。

流動負債は1,168,181千円となり、前連結会計年度末と比べて80,406千円減少いたしました。これは主に、未払金が12,171千円、未払消費税等が19,075千円それぞれ増加した一方、未払法人税等が139,556千円減少したこと等によるものであります。

固定負債は1,813,778千円となり、前連結会計年度末と比べて12,577千円増加いたしました。これは主に、長期借入金が6,305千円、繰延税金負債が6,651千円それぞれ増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第１四半期連結会計期間末における純資産は4,510,576千円となり、前連結会計年度末と比べて791,672千円増加いたしました。これは主に、資本剰余金が440,341千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が191,623千円それぞれ増加した一方、自己株式が154,750千円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年６月期の通期連結業績予想につきましては、2026年８月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年６月30日)	当第１四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	808,360	448,657
売掛金	334,144	393,761
商品及び製品	599,328	605,687
原材料及び貯蔵品	128,852	135,057
その他	119,058	161,158
貸倒引当金	△1,819	△2,128
流動資産合計	1,987,926	1,742,193
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	807,887	796,212
工具、器具及び備品（純額）	229,234	226,586
土地	1,597,983	1,597,983
リース資産（純額）	197	176
その他（純額）	12,381	14,868
有形固定資産合計	2,647,685	2,635,827
無形固定資産		
のれん	1,757,867	2,143,011
ソフトウエア仮勘定	89,622	89,622
その他	15,327	15,101
無形固定資産合計	1,862,817	2,247,735
投資その他の資産		
長期前払費用	32,098	615,486
差入保証金	75,546	77,949
繰延税金資産	130,717	139,764
その他	31,901	33,579
投資その他の資産合計	270,263	866,780
固定資産合計	4,780,767	5,750,343
資産合計	6,768,693	7,492,537

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,390	105,687
１年内返済予定の長期借入金	447,532	450,964
リース債務	77	77
契約負債	18,371	16,425
未払金	268,116	280,287
未払法人税等	275,206	135,649
未払消費税等	86,898	105,974
その他	36,995	73,115
流動負債合計	1,248,587	1,168,181
固定負債		
長期借入金	1,526,744	1,533,049
リース債務	103	62
資産除去債務	142,198	142,535
繰延税金負債	128,877	135,528
その他	3,277	2,602
固定負債合計	1,801,201	1,813,778
負債合計	3,049,789	2,981,960
純資産の部		
株主資本		
資本金	107,710	107,710
資本剰余金	2,582,717	3,023,058
利益剰余金	1,218,302	1,409,926
自己株式	△204,700	△49,950
株主資本合計	3,704,030	4,490,745
新株予約権	14,873	19,830
純資産合計	3,718,903	4,510,576
負債純資産合計	6,768,693	7,492,537

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	1,365,022	1,695,358
売上原価	996,536	1,172,439
売上総利益	368,485	522,918
販売費及び一般管理費	129,083	244,079
営業利益	239,402	278,839
営業外収益		
受取利息	645	1,038
受取販売奨励金	9,496	9,081
その他	2,404	5,947
営業外収益合計	12,546	16,067
営業外費用		
支払利息	6,328	8,714
持分法による投資損失	692	－
資金調達費用	995	683
その他	29	1,876
営業外費用合計	8,046	11,274
経常利益	243,903	283,631
特別利益		
固定資産売却益	2,700	－
特別利益合計	2,700	－
特別損失		
固定資産除却損	285	0
特別損失合計	285	0
税金等調整前四半期純利益	246,318	283,631
法人税、住民税及び事業税	78,005	94,403
法人税等調整額	2,789	△2,396
法人税等合計	80,794	92,007
四半期純利益	165,523	191,623
親会社株主に帰属する四半期純利益	165,523	191,623

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	165,523	191,623
四半期包括利益	165,523	191,623
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	165,523	191,623

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　2025年７月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	動物病院ネットワーク事業	医療衛生機器事業	バイオマテリアル事業	メディカルデータソリューション事業	研究開発受託事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,333,878	－	－	31,144	－	1,365,022	－	1,365,022
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	1,333,878	－	－	31,144	－	1,365,022	－	1,365,022
セグメント利益	292,701	－	－	6,295	－	298,996	△59,593	239,402

（注）１．セグメント利益の調整額△59,593千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　2026年７月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	動物病院ネットワーク事業	医療衛生機器事業	バイオマテリアル事業	メディカルデータソリューション事業	研究開発受託事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,479,696	96,396	6,229	31,822	81,214	1,695,358	－	1,695,358
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	2,030	－	－	－	2,030	△2,030	－
計	1,479,696	98,427	6,229	31,822	81,214	1,697,389	△2,030	1,695,358
セグメント利益又は損失（△）	335,678	△3,824	1,035	5,620	15,557	354,067	△75,228	278,839

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額△75,228千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「動物病院ネットワーク事業」セグメントにおいて、ノースワン株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんが増加しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第１四半期連結累計期間においては328,233千円であります。

「研究開発受託事業」セグメントにおいて、メディトリックス株式会社の株式を取得し、連結の範囲に

含めたことにより、のれんが増加しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第１四半期連結累計期間においては112,633千円であります。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

従来、当社グループの報告セグメントは「動物病院事業」のみであり、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、当第１四半期連結累計期間より、市場環境が大きく且つ急速に変化する中、迅速に意思決定を行い、中長期での事業拡大を進める体制を構築するため、「動物病院ネットワーク事業」、「医療衛生機器事業」、「バイオマテリアル事業」、「メディカルデータソリューション事業」、「研究開発受託事業」の５つの事業を報告セグメントとしております。

なお、前第１四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年９月２日開催の取締役会決議に基づき、2026年９月30日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式285,500株の処分を行いました。この結果、当第１四半期連結累計期間において資本剰余金が440,341千円増加、自己株式が154,750千円減少し、当第１四半期連結会計期間末において資本剰余金が3,023,058千円、自己株式が49,950千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	45,737千円	47,580千円
のれんの償却額	42,502 〃	55,723 〃